

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●高松宮記念ではナランフレグがG I初制覇

3月27日(日)に行われた高松宮記念(G I)ではナランフレグ(牡6歳/美浦・宗像義忠厩舎)が優勝しました。ナランフレグ、鞍上の丸田恭介騎手、宗像調教師は、いずれもG I初制覇となります。

●和田竜二騎手がJ R A通算1400勝を達成

3月26日(土)の3回中山1日・第10レースとして行われた伏竜Sではデリカダが1着となり、同馬に騎乗した和田竜二騎手(栗東・フリー)は、史上24人目・現役11人目となるJ R A通算1400勝(1万9526戦目)を達成しました。

●平沢健治騎手がJ R A障害通算1000回騎乗を達成

3月26日(土)の3回中山1日・第8レースとして行われたペガサスジャンプSでマイサンシャインに騎乗した平沢健治騎手(栗東・フリー)は、この騎乗で史上15人目・現役7人目となるJ R A障害通算1000回騎乗を達成しました。

●加藤征弘調教師が通算600勝、池添学調教師は通算200勝を達成

3月26日(土)の3回中山1日・第7レースではキングスパーズが1着となり、同馬を管理する加藤征弘調教師(美浦)が史上101人目・現役16人目となるJ R A通算600勝(延べ5255頭目)を達成。同日の2回中京5日・第9レースとして行われた天白川特別ではスレイマンが1着となり、同馬を管理する池添学調教師(栗東)は現役103人目となるJ R A通算200勝(延べ1796頭目)を達成しました。

●2022年のJ R Aブリーズアップセールは中山で開催

J R A育成馬の調教セール「2022 J R Aブリーズアップセール」は、4月26日(火)、中山競馬場で開催されることとなりました。前日の25日(月)には騎乗供覧が実施されます。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●弥富の新・名古屋競馬場が4月8日にオープン

愛知県弥富市の弥富トレーニングセンターを競馬場化した新・名古屋競馬場は、4月8日(金)に最初の開催日を迎えます。それに先立ち、3月22日には開場式典、内覧会、リハーサル競馬(模擬レース)が、24日にはナイターのリハーサル競馬が実施されました。新競馬場は右回り1周1180m、4コーナーからゴールまでの直線は240mで、ダートグレード競走は、5月3日のかきつばた記念(JpnⅢ)が1500m(旧競馬場時代は1400m)、12月8日の名古屋グランプリ(JpnⅡ)は2100m(同2500m)、来年3月16日の名古屋大賞典(JpnⅢ)は2000m(同1900m)となります。ナイターは4月25日(月)が最初で、他の競馬場の開催状況を踏まえた変則的な日程です。なお、新競馬場へのアクセスは、近鉄蟹江駅、サンアール名古屋(旧名古屋競馬場)、名古屋駅(名鉄バスセンター)から無料送迎バスが運行されます。

●桜花賞(浦和)は地元のスピーディキック【各地の主要3歳重賞】

桜花賞(3月17日、浦和、1600m、牝馬)は、北海道から浦和へ移籍した1番人気のエーデルワイス賞の覇者スピーディキック(父タイセイレジェンド)が、後ろから2頭目という位置から追い上げて直線半ばで抜け出し、2馬身差で完勝。東海地区デビュー馬限定戦の中京ベガスターC(3月8日、名古屋、1600m)は、4~5番手から差を詰めた4番人気のプライムデューク(牡、父アメリカンペイトリオット)が、残り50mで逃げ粘る1番人気のパピタを捉えて初の重賞制覇を果たしています。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●ドバイワールドCデー~日本調教馬が5勝の大活躍

現地時間3月26日にUAE・ドバイのメイダン競馬場で行われたドバイワールドCデーで日本調教馬が5勝をあげる大活躍を見せました。まずバサラットレオン(牡4歳、父キズナ、栗東・矢作芳人厩舎)がG2ゴドルフィンマイル(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、ダート1600m)を制すと、その後もステイフーリッシュ(牡7歳、父ステイゴールド、栗東・矢作芳人厩舎)がG2ドバイゴールドC(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、芝3200m)、クラウンプライド(牡3歳、父リーチザクラウン、栗東・新谷功一厩舎)がG2 UAEダービー(3歳、ダート1900m)、パンサラッサ(牡5歳、父ロードカナロア、栗東・矢作芳人厩舎)がG1ドバイターフ(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、芝1800m)、そしてシャフリヤール(牡4歳、父ディーブインパクト、栗東・藤原英昭厩舎)がG1ドバイシーマクラシック(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、芝2410m)に優勝しました(パンサラッサはロードノース=騾6歳、父ドバウイ、英J.ゴズデン厩舎との同着)。なお、メインのG1ドバイワールドC(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、ダート2000m)はアメリカのカントリーグラマー(牡5歳、父トーナリスト、B.パファート厩舎)がL.デットーリ騎手を背に3番手追走から直線で抜け出して優勝。昨年5月のG1ハリウッドゴールドC(ダート2000m)以来となるG1制覇を果たしています。